

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v2.0)

1 建物概要			
建物名称	ドミー小倉さくら通り新築工事	BEE	1.2 BEEランク B+ ★★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	2.9 /5		がんばろう:
2 地球温暖化対策の推進	3.7 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.6 /5		がんばろう:
4 高齢社会への対応	3.0 /5		ふつう
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 ふつう 3 点以上 がんばろう 3 点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.4.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 2.9	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数 Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3 スコア 2.8
<自由記述>		<自由記述>	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.8	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 3.5	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 4
<自由記述>		<自由記述>	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.7	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上 LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 2 スコア 2
<自由記述>		<自由記述>	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 3	主な指標 建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 4 建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.49 外構緑化指数 0 % 建物緑化指数 0 %	
<自由記述>			

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ドミー小倉さくら通り新築工事	階数	地上9F
建設地	福岡県北九州市小倉北区中島一丁	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	128 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2020年12月1日
敷地面積	979 m ²	作成者	山下 明洋
建築面積	651 m ²	確認日	2020年12月7日
延床面積	3,565 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	86%
③上記+②以外の	86%
④上記+	86%

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.2

音環境	3.0
温熱環境	2.9
光・視環境	3.3
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

機能性	3.6
耐用性	2.9
対応性	3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 1.8

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源	3.4
非再生材料の	3.0
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

地球温暖化	3.5
地域環境	2.5
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他	
入居者が過ごしやすい環境を目指しています。		
Q1 室内環境 生活しやすい環境を提供します。	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
ドーミー小倉さくら通り新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.8	
Q1 室内環境			0.40		-		3.2		
1 音環境		3.0	1.00	3.0	1.00		3.0		
1.1 室内騒音レベル	-	3.0	0.50	3.0	0.50				
1.2 遮音	-	3.0	0.50	3.0	0.50				
1 開口部遮音性能	-	3.0	1.00	3.0	0.30				
2 界壁遮音性能	-	3.0	-	3.0	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	-	3.0	0.20				
1.3 吸音	-	3.0	-	3.0	-				
2 温熱環境		2.8	0.35	3.0	1.00		2.9		
2.1 室温制御	-	3.0	0.50	3.0	0.50				
1 室温	-	3.0	0.63	3.0	0.63				
2 外皮性能	記入例:エアフローウインドウの採用	3.0	0.38	3.0	0.38				
3 ゾーン別制御性	-	3.0	-	-	-				
2.2 湿度制御	-	2.0	0.20	3.0	0.20				
2.3 空調方式	-	3.0	0.30	3.0	0.30				
3 光・視環境		3.3	0.25	3.3	1.00		3.3		
3.1 昼光利用	-	4.2	0.30	4.0	0.30				
1 昼光率	昼光率3.0%	5.0	0.60	5.0	0.50				
2 方位別開口	-	-	-	3.0	0.30				
3 昼光利用設備	-	3.0	0.40	3.0	0.20				
3.2 グレア対策	-	3.0	0.30	3.0	0.30				
1 昼光制御	-	3.0	1.00	3.0	1.00				
3.3 照度	-	3.0	0.15	3.0	0.15				
3.4 照明制御	-	3.0	0.25	3.0	0.25				
4 空気質環境		3.6	0.25	3.8	1.00		3.7		
4.1 発生源対策	-	4.0	0.60	4.0	0.63				
1 化学汚染物質	70%以上採用。	4.0	1.00	4.0	1.00				
4.2 換気	-	3.0	0.40	3.6	0.38				
1 換気量	-	3.0	0.50	3.0	0.33				
2 自然換気性能	居室面積の1/3以上の開閉可能な窓を確保している。	3.0	-	5.0	0.33				
3 取り入れ外気への配慮	-	3.0	0.50	3.0	0.33				
4.3 運用管理	-	-	-	-	-				
1 CO ₂ の監視	-	3.0	-	-	-				
2 喫煙の制御	-	3.0	-	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.2		
1 機能性		3.3	0.40	3.8	1.00		3.6		
1.1 機能性・使いやすさ	-	3.0	0.40	4.0	0.60				
1 広さ・収納性	-	3.0	-	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応	各居室100Mbitクラスのwifi設置	3.0	-	4.0	1.00				
3 バリアフリー計画	-	3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性	-	4.0	0.30	3.5	0.40				
1 広さ感・景観	天井高2.5m	3.0	-	4.0	0.50				
2 リフレッシュスペース	-	3.0	-	-	-				
3 内装計画	取り組み3項目	4.0	1.00	3.0	0.50				
1.3 維持管理	-	3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	-	3.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保	-	3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-		2.9		
2.1 耐震・免震・制震・制振	-	3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能	-	3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数	-	3.0	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	-	3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性	-	2.8	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	-	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備	-	2.0	0.20	-	-				
3 電気設備	-	3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法	-	3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	-	3.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			2.8	0.30	3.3	1.00	3.1
3.1 空間のゆとり			-	-	3.6	0.50	
1 階高のゆとり	階高2.9m		3.0	-	4.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ	-		3.0	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			2.8	1.00	-	-	
1 空調配管の更新性	-		2.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出	-		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制	等級4相当		4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	-	-	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	-		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	-		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水型便器		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減	-		3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル系床材(NSシート)、バルコニー、開放廊下		3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	-		3.0	1.00	-	-	
3 冷媒	-		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	換算スコア=3.5		3.5	0.33	-	-	3.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	-		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	3ポイント		4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		3.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		3.0	0.70	-	-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	